

1 研究主題

主体的に問題解決する子供を育てる授業づくり ～「深い学び」を実現させるための指導の充実を通して～

2 研究主題設定の理を

学習指導要領で求められている資質・能力を育成するため、「主体的・対話的で深い学び」を実現させるべく授業改善を行う必要がある。そのために、練馬区教育会理科部では『主体的に問題解決する子供を育てる授業づくり』という研究主題を掲げて授業改善に取り組んでいる。過去3年間は特に「主体的・対話的」に「理科の見方・考え方」を働かせる授業づくりについて研究を進めてきた。その結果、児童に働かせたい見方・考え方について学年や領域ごとに整理することで、「何・どこに注目させるか」「どのように考えさせるか」といったことがより具体的になり、指導の充実を図ることができた。しかしながら、「見方・考え方」を働かせたことで、児童が「深い学び」を実現できていたかまでは見取ることができていない。

そこで今年度は副主題を『「深い学び」を実現させるための指導の充実を通して』と設定し、「深い学び」を実現したいと考えた。

そのために「目指す児童像」「研究の視点」「具体的な手立て」を明確にし、検証していこうと考えた。

3 目指す児童像

自然の事物・事象から問題を見だし、予想や仮説をもち、その解決方法を考えたり、知識を関連付けてより深く理解したりすることができる児童

4 研究の視点

- (1) 「理科の見方・考え方」を働かせながら問題解決の過程を通して学ぶことにより、理科で育成を目指す資質・能力を獲得するようになっていくか。
- (2) 様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成することに向かっているか。
- (3) 新たに獲得した資質・能力に基づいた「理科の見方・考え方」を、次の学習や日常生活などにおいて問題発見・解決の場面で働かせているか。

5 具体的な手立て

(1) 見方・考え方を働かせながら問題解決の学習過程を通して、資質・能力を獲得する

- ① 「理科の見方・考え方を児童から引き出し、働かせる。
- ② 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行わせる。
- ③ 自らの学習活動を振り返ることで、学習活動を意味付け、何が身に付いたか自覚させる。

(2) 様々な知識をつなぎ、より科学的な概念を形成する

- ① 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行わせる。
- ② 見方・考え方を意識して働かせ、様々な知識をつなぎ、より科学的な概念を形成させる。
- ③ あらかじめ個人で考え、その後、意見交換したり、根拠を基にして議論したりして、自分の考えを最適解に近づけさせる。

(3) 獲得した資質・能力を次の問題発見・解決場面で働かせる

- ① 観察, 実験の結果を基に考察を行い, より妥当な考えを創り出させる。
- ② 自然と向き合い, 働きかける問題解決の過程を通して, 学習と社会をつながせる。
- ③ 新たに獲得した資質・能力を, 次の学習や日常生活などの問題発見・解決の場面で活用させる。

6 研究構想図

